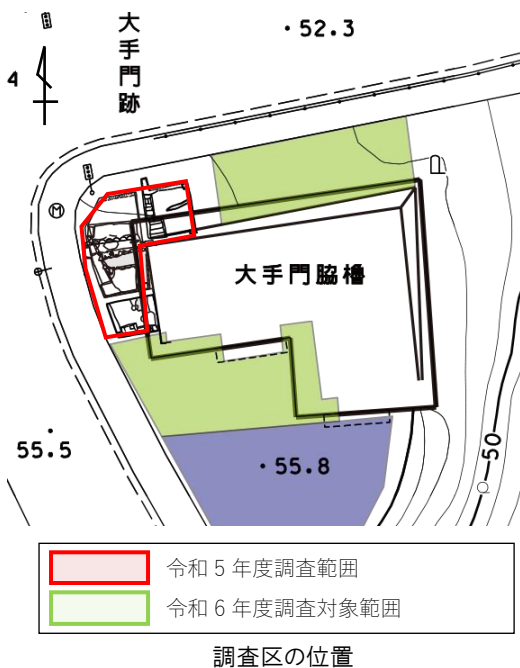


仙台城跡大手門跡周辺の発掘調査を実施中です

大手門跡および周辺発掘調査(第2次)を実施しています。調査期間は令和6年6月中旬から9月を予定しています。調査地点は、昨年に引き続き大手門脇櫓(再建)の周辺で行っており、焼失前の大手門・大手門脇櫓周辺の状況を確認することを目的としています。



現地表から30~40cm程度下まで掘り下げた状況です。焼失以前の整地の層や、空襲で熱を受けた際に焼けた土が混ざる範囲などが確認されています。

調査区の様子(南西から)



白線が石組側溝の側石の上面ラインで、破線は推定ラインです。写真奥の方では石組側溝の石材が、脇櫓(再建)の犬走の下に入り込んでいます。

石組側溝の上面(南から)

今年度の調査では、大手門脇櫓(再建)の南側で石組側溝が確認されました。この石組側溝は、焼失前の大手門と大手門脇櫓の周囲を巡っていた雨落ち溝と推測されます。雨落ち溝は屋根の先端の真下に沿って設置されるため、その輪郭が分かると屋根の範囲を考える手掛かりとなります。昨年度の調査でも確認されているので、今回の範囲と合わせて全容を確認することが課題となります。

大手門・大手門脇櫓出土の遺物を展示しています



現在、仙臺緑彩館にて、東北大学災害科学国際研究所による展示「よみがえる仙台城大手門の金具たち—速報「梅津幸次郎コレクション」の再発見—」(7/20~8/25)が開催されています。

その開催に合わせてライブラリーの一角で、当課で昨年度に実施した大手門跡および周辺発掘調査の出土遺物を展示しています。展示品は、大手門が建っていたと推測されていた地点から出土したもので、昭和20年の仙台空襲の熱により赤く変色した瓦など代表的な遺物を選んでいきます。ぜひお立ち寄りください。